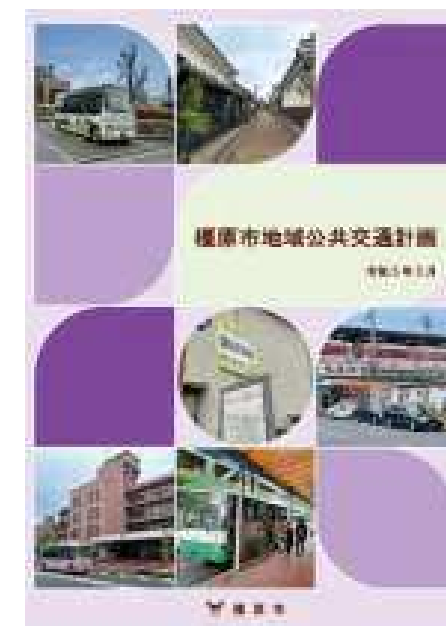


報告 1

橿原市地域公共交通計画の進捗報告及び 令和 6 年度実施事業について

報告1



橿原市地域公共交通計画の進捗報告 及び令和6年度実施事業について



計画全体の目標

- ①地域公共交通の利用者数の回復
- ②地域公共交通に対する市の財政負担の維持
- ③地域内フィーダー系統補助路線の収支率の改善

基本方針Aに関する目標

- ①コミュニティバスのサービス向上
- ②利便性向上に向けた取り組みの増加

基本方針Bに関する目標

- ①公共交通にアクセス可能な市民の増加
- ②主体的に地域公共交通を考える地域や取り組みの増加

基本方針Cに関する目標

- ①地域公共交通に係る関係者による活発な意見交換
- ②地域公共交通に係る積極的な情報発信
- ③公共交通教育・学習機会の提供の増加

	実施した施策	進捗
A-1	路線バスへの補助及びコミバスの運行委託による現行バス路線の維持	市：市内フィーダー系統に対して補助・コミバス運行委託 県：広域バス路線（市内4系統）に対して補助を実施 国：上記すべての路線に補助を実施
A-2	コミュニティバス利用促進施策の実施	(P3) 近鉄百貨店×コミバスコラボキャンペーンの実施
A-3	近鉄大阪線耳成駅バリアフリー工事の実施	(P4) 近畿日本鉄道(株)により工事開始 （～令和6年9月完成予定）
B-1	真菅地区実証実験運行の実施	「乗合ますが号」の実証運行を実施 （令和5年度第2回会議で報告）
C-1	県・関係市町村・交通事業者とのエリア会議に参加	奈良県地域公共交通計画に基づく「エリア公共交通検討会議」に出席し、広域的な公共交通の課題・取組を議論
C-2	近鉄百貨店と連携でコミバス利用促進を実施	令和5年度 コミバスコラボキャンペーンで連携 （令和5年度第2回会議で報告）
C-3	広報かしはらで公共交通に関する特集記事の掲載	(P6) 橿原市地域公共交通計画の策定を主軸に、市内公共交通の危機的状況、地域住民や企業と連携する取組について触れる内容を広報
C-5	公共交通学習の実施に向けて教育委員会と調整	小学校での授業（公共交通教室）の実施可能性を検討

近鉄百貨店×コミバスコラボキャンペーン

報告1 P4

かしはら市コミュニティバスに乗って
近鉄百貨店枚原店に行くと、
お買い物で特典を受けられるチャンス！

近鉄百貨店×コミバス コラボキャンペーン

～コミバスでお買い物に行きませんか？～

キャンペーン期間
令和5年11月6日(月) から
令和5年12月31日(日) まで

～キャンペーンの参加方法～

- 1. コミバスに乗る！**


大人は1回170円

キャンペーン期間中に、
大和八木駅行きのコミバスに
乗車してください。
- 2. 乗車証明書をゲット！**


バス停「大和八木駅」に到着後、
運転手さんに声をかけて、
乗車証明書を受け取ってください。

※お願いです。
完全に停車するまで
立ち上がり、
運転手さんに
声をかけないでね！
- 3. 近鉄百貨店で
買い物時に特典を受ける！**


キャンペーンの対象売り場と
特典の情報は、
ホームページを
チェック！

キャンペーンの対象売り場で
お支払いの際に、
乗車証明書を提示してください。

枚原市HP内
特設ページ
- 4. その日に限り、
何度でもお得に！！**


乗車証明書は回収しません。
キャンペーンの対象売り場の
お買い物回毎に提示してください。

・乗車証明書は、1回の乗車につき1人1枚まで受け取れます。
・乗車証明書の利用日の欄は、最初に乗車証明書を見せた売り場で当日の日付を記入されます。
・乗車証明書は、記入された利用日の1日限り有効です。
・期間中であれば、コミバスに乗車する都度、何度でもキャンペーンに参加できます。
・キャンペーンの対象売り場・特典の内容は、期間中に変更する場合があります。
・市ホームページ・バス車内掲示にて随時お知らせしますので、ご利用の際にご確認ください。

お問い合わせ：枚原市役所都市計画課 (0744-47-3549) 詳しくは枚原市役所 枚原市 コミバスコラボ 検索

近鉄大阪線耳成駅バリアフリー工事

報告1 P5

工事前



工事後



スロープ設置による地上改札化
北側改札は完成・供用開始済 9月竣工予定



しかし

2. 橿原市の地域公共交通も課題に直面しています

みなさんの日常の移動手段は何ですか？

住民アンケートによるとー【通勤・通学】 1位 自家用車 2位 鉄道 3位 徒歩
(橿原市地域公共交通計画より抜粋)



【通院】 1位 自家用車 2位 自転車 3位 徒歩

【買い物】 1位 自家用車 2位 自転車 3位 徒歩

多くの方が、自家用車や自転車、徒歩での移動を行っており、地域公共交通はあまり利用されていません。アンケート【通勤・通学】で鉄道が2位ですが、市外への移動目的が大半で、【市内を移動する目的】で地域公共交通を利用する方は少なくなっています。

全国的にも地域公共交通の利用者は減少傾向で、既存路線の廃止や運転手不足などの問題が発生しています。橿原市もこのままでは近い将来、「生活の足」である地域公共交通がなくなってしまうかもしれません。

そこで

3. 何とかしよう橿原市の地域公共交通！

身近な地域公共交通を利用することも大切な1歩です！

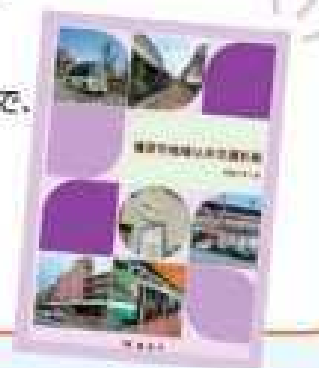
地域公共交通を次の世代につなげていくため、交通事業者や行政だけでなく地域住民を含めたすべての関係者が一体となって、考え、支え、取り組んでいくため

「橿原市地域公共交通計画」を策定しました。

橿原市の地域公共交通の現状課題や取り組み方をまとめているので、是非ご覧ください。 ☎ 14147

基本理念

「はじめる」「支える」「つなげる」かしはらの地域公共交通



次ページでは地域公共交通を次の世代につなげていくために「地域や商業施設」と「行政」が協力した事例を紹介します！

特集

「はじめる」「支える」「つなげる」かしはらの地域公共交通
～橿原市の地域公共交通を考えよう～



問 都市計画課 ☎ 47-3549

はじめに

1. 利用されていますか？ 橿原市の地域公共交通

橿原市は全国的にみても、市の大きさに対し、鉄道やバスなどの地域公共交通が充実しているまちです。みなさん地域公共交通を利用されていますか？



取り組み①

4. 新たな地域公共交通の確保のために「地域」と行政が協力した事例

乗合 ますが号 (仮称)

☎ 6297



10/2月「乗合ますが号（仮称）」の出発式が行われました。「ますが号 出発進行！」の掛け声を合図に、多くの地元の方々に見送られながら記念すべき第1便が出発！

「乗合ますが号（仮称）」とは？

駅やバス停から離れた不便な地域で、日常の買い物や通院などにみんなが使える移動手段を確保するために、真菅地区の住民である真菅地区コミュニティ交通実行委員会が検討を重ねて、市内のタクシー事業者の協力を得て実現した乗合交通です。12/30 出までの間、試験的に実証運行を行い、利用状況などを検証しながら本格運行を目指していきます。

運行ルート・ダイヤ・利用ルールは地域で考えて設定！

乗合ますが号（仮称）は、普通のタクシー車両を活用して定路線・路線運行しています。運行ルートやダイヤなどは市が決めたのではなく、乗合ますが号（仮称）を利用する地域の皆さんが、利用したいルートや運行時間帯を考えられ実現しました。



取り組み②

5. 地域公共交通の利用促進のために「商業施設」と行政が協力した事例

かしはら市コミュニティバスに乗って、近鉄百貨店橿原店に行く。近鉄百貨店でもバスに乗って、かしはら市コミュニティバスに乗って、近鉄百貨店橿原店に行く。

近鉄百貨店×コニバス コラボキャンペーン

～コニバスでお買い物に行きませんか？～

かしはら市コミュニティバス（コニバス）に乗って近鉄百貨店橿原店に行くと、対象売り場での買い物時に割引などの特典を受けられるキャンペーンです！

キャンペーン期間：11/6（月）～12/31（日）

※詳細は市ホームページを確認ください。☎ 14845

地域のみなさんの声

真菅地区コミュニティ交通実行委員会 尾田 会長

乗合ますが号（仮称）が、実証運行を開始することをとても喜んでいました。R元年度から要望を始め、コロナ禍もありなかなか会議が進まないこともありましたが、何度も会議を重ね、ようやく走らせてもらうことができました。今後長く継続できるように、皆さんにどんどん利用してもらいたいです。



五井緑ヶ丘自治会 石田さん

車を利用できない方などから相談を受けて、やっとこの日を迎えることができました。問題は出てくるかもしれませんが、やってみないとわからないことばかり。みんなで協力してやっていきましょう！

（左から）吉田さん、岡橋さんご家族

スーパーや病院など、普段利用する多くの場所をカバーしてくれる完璧な運行ルートだと思います。自分たちが免許証を返納する頃まで運行が続いてほしいです。



6. 一緒に 地域公共交通を支えよう

地域公共交通は、住民の生活に不可欠な存在です。住民の生活を支えるためには、地域公共交通の維持・向上が必要です。地域公共交通の維持・向上には、住民の協力が必要です。地域公共交通の維持・向上には、住民の協力が必要です。



令和5年度までの進捗（基本方針A・B・C）

		評価指標	令和3年度	数値目標 (計画終期)	計画終期 目標値		令和4年度	令和5年度 (1年目)
基本 方針 A	①	市内を運行するバス路線数	14路線	維持	14路線		14路線	14路線
	②	新たに実施するサービス改善策の 取り組み数	0件	増加	1件		0件	1件

基本 方針 B	①	バス・鉄道等による人口カバー率	83%	増加	83%以上		変化なし	変化なし
	②	地域が主体的に地域公共交通を考 える取り組み数	1件	増加	2件		1件	1件

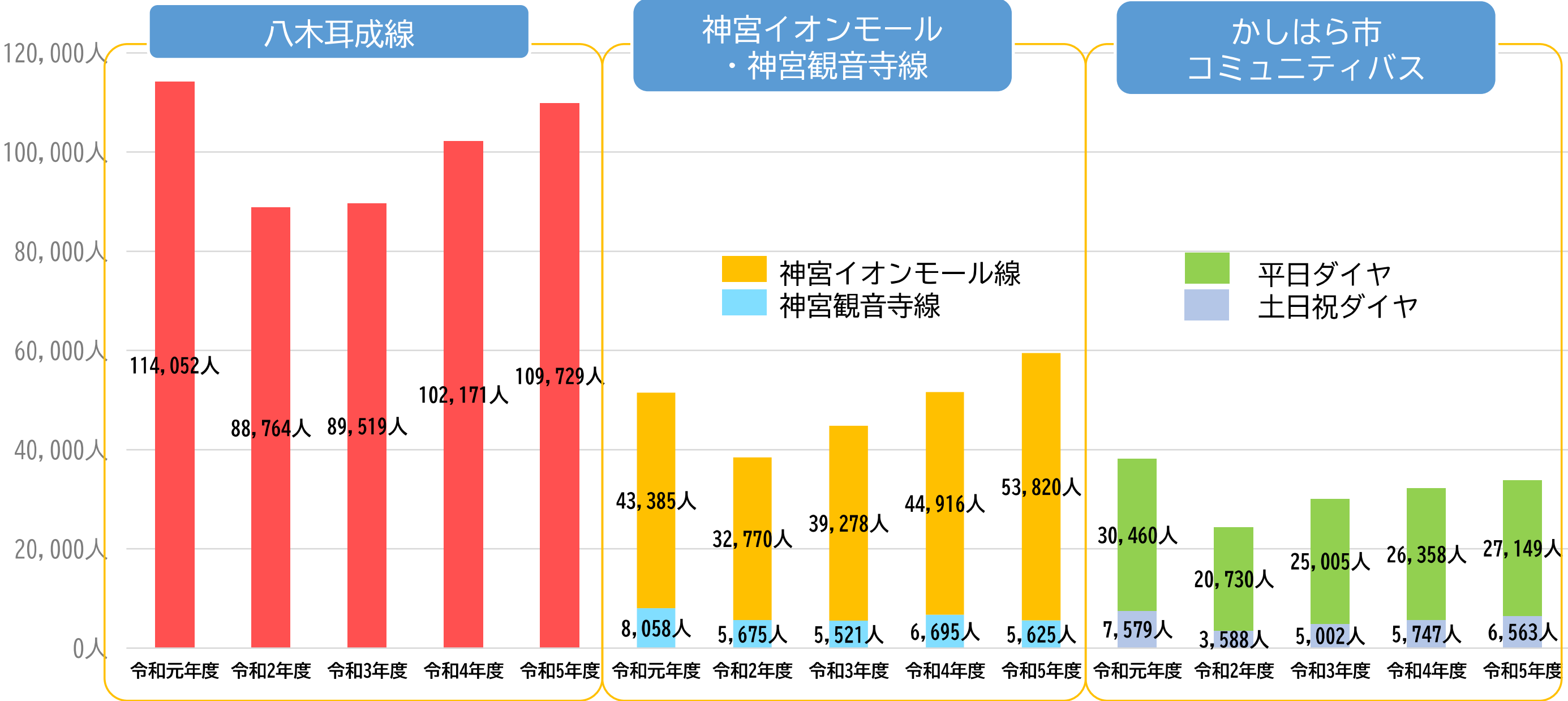
基本 方針 C	①	連携施策を検討する意見交換会の 実施回数	0回	増加	2回／年間以上		0回	2回
	②	市広報における地域公共交通に関 する情報発信の回数	0回	増加	2回／年間以上		0回	3回
	③	公共交通学習を実施する学校数	0回	増加	延べ16校		0回	0回

- A-②・・・コミバスコラボキャンペーン（利用促進）
- B-②・・・真菅地区乗合交通の実証運行
- C-①・・・真菅地区での連携・近鉄百貨店との連携
- C-②・・・特集記事の掲載など

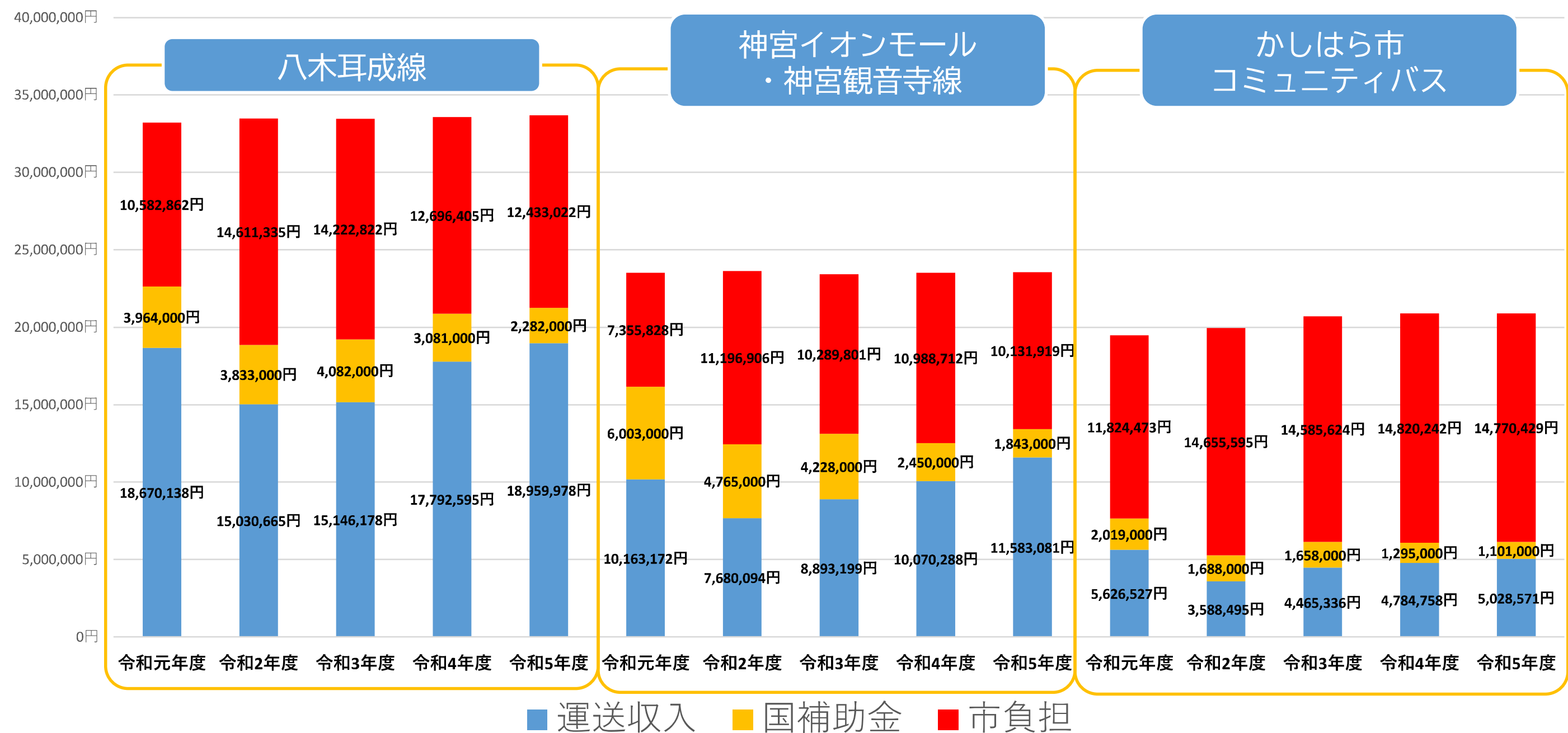
利用実績

フィーダー系統

利用者数



	八木耳成線	神宮イオンモール ・ 神宮観音寺線		かしはら市コミュニティバス	
利用 者数	109,729人 (+ 7%)	59,445人 (+ 15%)		33,712人 (+ 5%)	
		神宮イオンモール線	53,820人	平日ダイヤ	27,149人
		神宮観音寺線	5,625人	土日祝日ダイヤ	6,563人

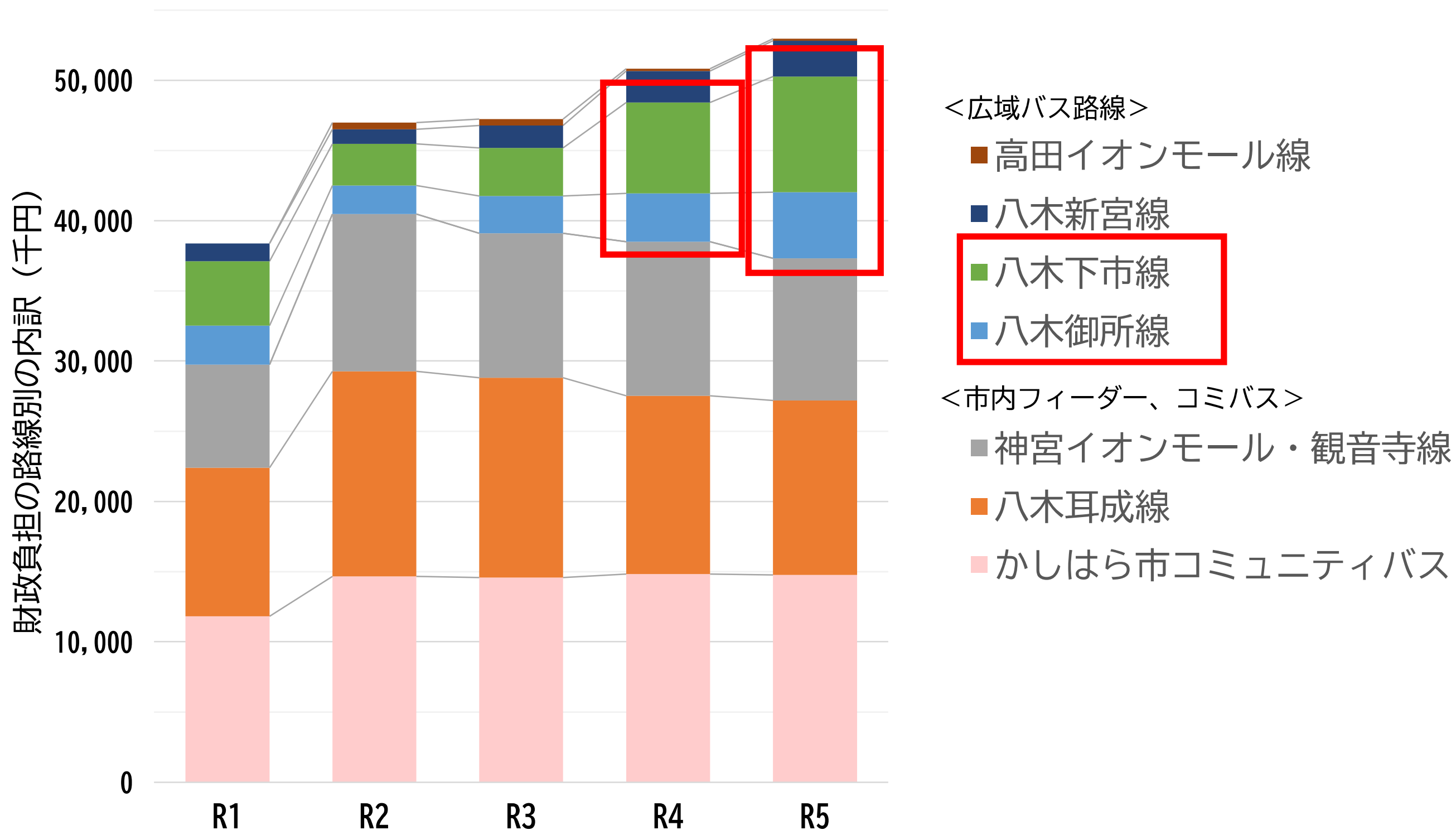


令和5年度実績 (前年度比)	八木耳成線	神宮イオンモール ・ 神宮観音寺線	かしはら市 コミュニティバス
運行経費	33, 675, 000円 (+0. 3%)	23, 558, 000円 (+0. 2%)	20, 900, 000円 (+ 0%)
運送収入	18, 959, 978円 (+ 7%)	11, 583, 081円 (+15%)	5, 028, 571円 (+ 5%)
国補助金	2, 282, 000円 (-26%)	1, 843, 000円 (-25%)	1, 101, 000円 (-15%)
市負担	12, 433, 022円 (- 2%)	10, 131, 919円 (- 8%)	14, 770, 429円 (-0. 3%)

檀原市内のバス路線維持に係る財政負担の推移

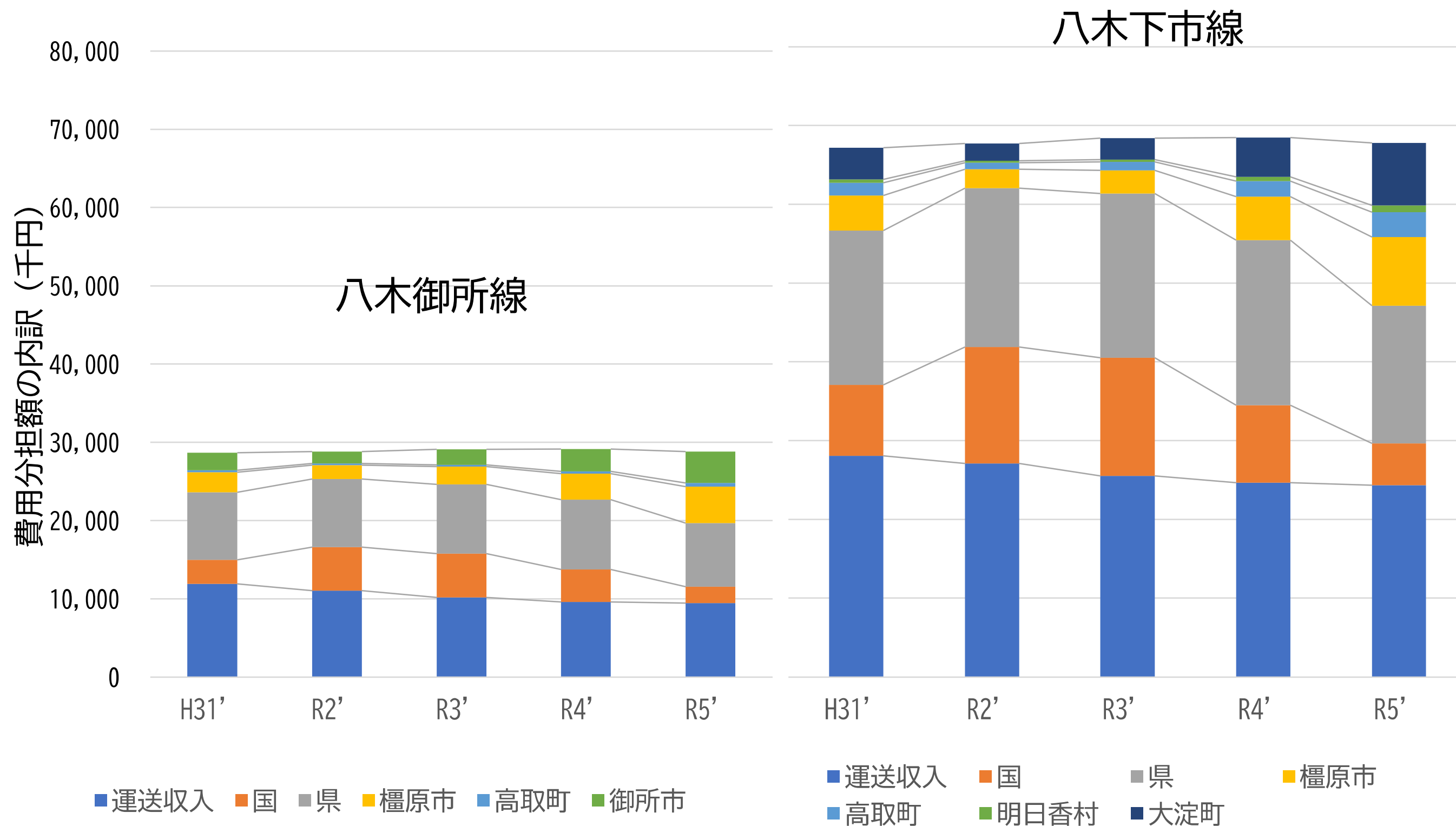
報告1 P11

・・・コミバス、市内フィーダー系統、広域バス路線



広域路線バス（八木下市線・八木御所線）の財政負担が増加
（収入の伸び悩み、国庫補助の減少などが原因）

(参考) 広域バス路線の費用分担の推移



国庫補助が減少していることに加えて、
市内路線で見られた運送収入の回復が見られない ⇒ 市町村負担が増加

令和5年度までの進捗（計画全体）

		評価指標	令和3年度	数値目標 (計画終期)	計画終期 目標値		令和4年度	令和5年度 (1年目)
計画全体	①-1	かしはらしコミュニティバスの利用者数	30千人	20%増加	36千人	実績	32,105人	33,712人
						R3比	+7.0%	+12.3%
		奈良交通路線バスの利用者数	914千人	20%増加	1,097千人	実績	974,559人	
						R3比	+6.6%	
	①-2	奈良交通路線バスの利用者数	475千人	10%増加	523千人	実績	564,047人	
						R3比	+18.9%	
		近鉄・JRの利用者数（市内13駅の乗車人員）	12,550千人	10%増加	13,805千人	実績	13,569,726人	14,170,295人
						R3比	+8.1%	+12.9%
	②	バス路線維持に係る市の財政負担総額	46,948千円	維持	46,948千円	実績	50,827,259円	53,065,811円
						R3比	+8.3%	+13.0%
	③	奈良交通路線バス（八木耳成線、神宮イオンモール線・神宮観音寺線）の収支率	42.5%	5ポイント以上改善	47.5%	実績	48.8%	53.4%
						R3比	+6.3%	+10.9%
		橿原市コミュニティバスの収支率	21.6%	5ポイント以上改善	26.6%	実績	22.9%	24.1%
						R3比	+1.3%	+2.5%

- ・ 全ての項目で、目標（経過での指標）を達成
- ・ 財政負担は今後も増加傾向で推移する見込み

令和6年度の取組の予定

	施策	取組予定	実施主体（◎:メイン）
A-1	行政負担による地域公共交通の維持	路線バスへの補助及びコミバスの運行委託による現行バス路線の維持	◎国・県・市
A-2	コミュニティバスのサービス改善・見直し	利用促進策の実施 バスロケーションシステムの導入	◎市 ○商店（近鉄百貨店）
A-3	誰もが使いやすい公共交通環境整備	近鉄大阪線耳成駅バリアフリー工事の実施（令和5年度から継続）	◎交通事業者（近鉄） ○国・県・市
B-1	鉄道・バスによるカバー率が低い地域における移動手段の確保	真菅地区における実証実験（2回目）	◎地域住民・市 ○交通事業者（タクシー事業者）
C-1	地域公共交通に係る協議・調整の場づくり	関係部局、関係機関と協議・調整（特に広域路線について）	◎市 ○国・県、他市町村
C-2	観光・商業施設・地元企業等との連携	乗合ますが号の取組で、近隣商店等との連携を検討 利用促進策について近鉄百貨店と連携して実施	◎市 ○商店（近鉄百貨店）
C-5	地域公共交通を地域が自ら守り育てる意識の醸成	公共交通学習の実施に向けて教育委員会と協議継続	◎市（都市計画課、教育委員会）

施策内容等は、今後の地域・関係者協議により調整・決定いたします。